

# 令和4年度第3回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日時 令和4年7月20日(水)13:00~15:00

2 場所 福知山公立大学4号館4階会議室

### 3 出席者

委員	(リモート参加) 青山委員、大久保委員 (会場参加) 菊田委員、藤原委員、山口委員
福知山市	田村室長、谷口次長、井上補佐、川村、吉田
福知山公立 大学	川添理事長兼学長、倉田地域経営学部長、畠中(利)教授、山田教授、井上教授、岸本事務局長、山中GM、内田GM、荻野GM、竹元AM、神代AM、矢野AM、小原AM、中尾AM、大月AM

### 4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	<b>【議題】</b> 公立大学法人福知山公立大学 令和3年度及び中期目標に係 る評価業務実績評価について	事務局から資料により説明。
2	<b>【議題】</b> 意見交換・質疑等	(主な意見) ■ 進学する学校として魅力あるということはもちろん大事であるが、卒業後も、この大学に在籍したことで進路が拓けるというイメージを地元の高校生にもっていただけるようになるよう期待している。
3	<b>【報告事項】</b> 令和3年度公立大学法人福知 山公立大学財務諸表について	福知山公立大学から資料により説明。
4	<b>【報告事項】</b> 意見交換・質疑等	

### 5 次第

(1) 開会挨拶 青山委員長

(2) 議題：公立大学法人福知山公立大学令和3年度及び中期目標に係る評価業務実績評価について

(事務局)  
資料により説明。

(委員)

旧私立大学の定員割れの状態から、学生も丁寧に引き継いだうえで2016年度に開学された。二度と定員割れを起こしてはならない状況において、学生募集は都市部に比べて有利とはいえない立地の中で、この6年間、本当によく頑張られたと感じている。中期目標期間の評価については、過去5年間の評価を単純平均するのではなく毎年度の積み重ねを6年間、中期目標期間としてどうかという目線で評価させていただいた。

(委員)

実績報告書の文章自体が非常に読みやすくなっている。業務実績報告書について、業務の実績は(再掲)として、同じ内容であるが、自己評価が異なっている項目について、どう評価してよいのか迷った。地元の高校生が志願するような大学になって欲しいと考えている。

(委員)

京都創成大学、成美大学のときに非常勤講師として大学に関わっていた。今年度から評価委員として生まれ変わった大学に携われることに喜びを感じている。進学する学校として魅力あるということはもちろん大事であるが、卒業後も、この大学に在籍したことで進路が拓けるというイメージを地元の高校生にもっていただけるようになるよう期待している。地元市民として、地域の新聞や市の広報誌に大学の情報が掲載されているのをよく見かけるようになった。

(委員)

実績数値が明らかになっている項目は評価がしやすかった。地域経営学ではどのように地域に貢献していくかという思いを持って取組をされていると思うが、計画をして、組織を作って活動したことがどのように地域の活性化につながっているのか分かりにくい部分があった。

(委員)

開学当初は、実績報告書の実績内容に再掲が多く、評価書の作成は不要ではないかというような議論もあった。年々、そのような部分が整理されてきたと感じている。年度計画に目標数値がある程度記載されると、評価がしやすくなる。今回、一部再掲の部分に再掲と記載がなかったため、評価に手間取った。人口が8万人規模の市が大学とともに6年間でこれだけのことをされてきたことは素晴らしいと感じた。

(委員)

- **年度計画番号3** 修学カルテについて、入力率が8%ということであるが、この割合であると、修学カルテの本来の役割を果たさせないのではないかと。  
⇒業務実績報告書について、評価委員会でエビデンスの資料が必要であれば、提出させていただく。  
⇒修学カルテについては、学生に浸透していないと言える。  
⇒修学カルテをどのように利用するか、設計がまだできていない。学生にとって入力するインセンティブがない。令和3年度前学期はオンライン授業も多かったため、このような入力率にとどまっている。教員側も、修学カルテを見て例えばゼミ生の指導をするといった仕組みが構築できていない。そういう使い方をするかどうかも含めて検討が必要である。全国的に、ポートフォリオの位置づけが難しい。高等学校のeポートフォリオも廃止されている。

(委員)

- アメリカでは、学生が就職する際に自分がどのような勉強をしてきたかということを経営に見せるときに使われる。日本ではポートフォリオの利用が就職活動に結びついていない。学生が入力した内容に教員がコメントを返すことは大変労力がかかるが、コメン

トを返すことで学生の反応が全く違うので、修学カルテを使っていけるような仕組みに  
していただきたい。

(委員)

- **年度計画 8**について、福知山公立大学データブックは I R (Institutional Research)  
の一環で作成されたかと思うが、どのような分析をされ、どのような成果があったの  
か。

⇒ I R に取組みはじめて日が浅い。どのように学内の様々な活動に I R を結び付けていく  
のか、何のために I R をするのか、ということに腰が定まっていない。今あるデータは  
教学関係のものであるが、その他財政関係のもの、研究関係のものも今後データブック  
に掲載し、I R 活動として取組んでいくべきであると考えている。

⇒ データブックは内部の経営判断などに使うための資料としているため、外部に公開して  
いない。

⇒ I R の委員会ができたのが、一昨年。データを一元化するというので、データブック  
を作成するという作業に着手し、一昨年と今年のデータブックがそれぞれできあがって  
いる。網羅的に大学内にあるデータを集めて一元化して見るというところから着手して  
いるので、現時点では、分析結果ではなく、データをまとめているものという位置づけ。  
I R の活動としては、入学者と入学後の成績との分析に着手をしており、それが実績で  
ある。

(委員)

- **年度計画 6**について、自己評価が「3」である理由は。シラバスの作成要領を作成し、  
チェックまでされている。インターネットでシラバスを拝見したら参考図書、評価の方  
法など大幅に改善されている。業務実績には記載がないが、法人で認識されている課題  
があるのか。

- **年度計画 1 3**について、コロナ禍での学生支援も手厚くされているのに「3」の理由  
は。

⇒ **年度計画 6**について教務委員会で全講義のシラバスチェックをしており、相当労力をか  
けているが、年度計画どおりの内容の実施なので「3」とした。

⇒ **年度計画 1 3**について、年度計画に記載のないことにも取組んだが、記載のあることで  
取組めていないものもあったため「3」としている。

(委員)

- **中期計画 5 5** 三たん地域の志願者を集めるためには何が必要か分析をしているか。ま  
た、どのような活動を行っているか。三たん地域からの志願者数について、大学として  
は今の水準が適当であると考えているか。

⇒ 三たん地域に対するアクションは直接出向いて説明するというのを重点的に行ってい  
る。エリア内にある全高等学校に複数回の訪問をして、こういう大学であって、こうい  
うことが学べるという説明をしている。志願者数の推移については、情報学部ができた  
分だけ増加したと見てよいと考えている。高校生の進路希望として、情報学部と地域経  
営学部の2学部ですべてを網羅するということはあり得ないので、三たん地域の学生が  
特別にその2学部を志望するような状況を作り出さない限りは、全国的な割合で志願者  
がいて普通であると考えている。

⇒ 分析は難しいが、現実に入試の結果を詳細に見ていくと、三たん地域からの志願者は学  
校推薦型に地域枠で合格する、というかたちで入学している学生がほとんどのケース。  
それ以上に合格者を増やすには一般選抜に合格してもらわなければならない。一般選抜  
による合格者を増やすには、この地域にある進学校からの志願者を増やす又はこの地域  
の学力レベルが相対的に他の地域より高くなることが必要。小中学生向けプログラミング  
教室なども行っており、地域の学力の向上に寄与しようという取組は行っているが、

その成果が出てくるのは10年後になるので、この地域からの進学者が増えるということとは長い目で見るのが妥当ではないかと考えている。

⇒第2期中期目標では、北近畿地域からの優秀な入学者が学生定員の20%以上となることを目指すと申し上げているので、現在の水準でよいとは思っていない。

(委員)

- 全国的に志願者を募集する中で、この地域に特化してというのは難しいかもしれないが、保護者の方が近くにおられるというのはこの地域にとって強みになるのではないか。

(委員)

- **中期目標18**について、メディアセンターについて、日中に行ってみたが、多くの学生が利用しているという状況ではないようであった。その一方で、施設は立派なものであるので、今後どのように利用されていくのか。学校としての魅力の一つになるのではないか。

⇒一般的に申し上げると、大学図書館の機能というものは、世界的に大きく様変わりしている。一つ目は電子化。二つ目は場所。静謐な場所ではなく、ラーニングコモンズのような使い方も一般的になっている。現時点では、メディアセンターを十分利用しきれていない、と感じている。これから検討が必要であると考えている。今は過渡期。大学全体の動向を見ながら、検討を進めたい。

(委員)

- **年度計画10**について、共通テストの影響は他の大学も同じようであったのか、福知山公立大学だけのものであったのか。

⇒センター試験が共通テストに変わったときに、出題傾向が若干変わっており、かつ目標とする平均点の設定も変化してきている。平均点に近いあたりの受験者層が最も影響を受けていて、志願者の行動選択に関してのフィードバックのようなかたちで受験業者からの翌年のボーダーラインのような情報が発せられるが、そこに出てくる結果が大きく動いている。その結果、どういった層の受験生が本学を志願してくるのかという読みも少し難しくなってきたという話である。

⇒河合塾によると、2021年度は福知山公立大学地域経営学部（地域経営5教科型）の後に和歌山大学経済学部、西日本の経済系の学部が並んでいたが、共通テスト後の2022年度は最下部の位置づけになっている。

⇒河合塾は既卒者の情報も含んでいるので、実態に近い。

(委員)

- 安定的に志願者を確保している中で、2022年度にこれだけの変化が生じたことに驚いている。ターゲットとなる競合大学がどこなのか、という分析も必要。

### (3) 報告：令和3年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表等について

(事務局)

**資料2**により説明。

(青山委員長)

- ・財務諸表について事務局で要件を満たしていることを確認いただいた。
- ・財務諸表の承認に当たって評価委員会としては適当であると判断する。

(委員)

- ・第2回評価委員会で大学より説明のあった、積立金の処分に係る申請は、財務諸表を承

認すると、第2期の業務の財源に充てられるということによいのか。

(事務局)

- ・第1期に生じた積立金の第2期への繰越については、設立団体の長が承認することとなっている。現時点で、承認するかどうかの判断はできていない。承認した額は第2期における業務の財源に充てるということが法律にも定められているので、大学にも用途を確認したうえで承認をするかどうかを、今後検討したいと考えている。大変申し訳ないが、8月10日の評価委員会に報告事項として提出するという確約はできないが、提出できない場合は後日委員の皆様にご報告申し上げたいと思っている。

(4) 閉会